

あいちの教育ビジョン 2020

〈指標の達成状況〉

指標の達成状況（指標と進捗状況）

指 標	ビジョン策定時点		2016 年度	2017 年度	2018 年度
	年度	数 値			
1. 個に応じたきめ細かな教育を充実させ、一人一人の個性や可能性を伸ばします					
(1) 学力・学習状況充実プランの改善の指針を踏まえて、学力向上に向けた教育活動を進めている小・中学校の割合	2015	—	100%	100%	94.3%
(2) 授業改善に関する指標					
ア 「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:83.6% 中:74.4%	小:85.9% 中:80.0%	小:86.6% 中:83.1%	文科省調査に質問なし
イ 「学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:82.9% 中:75.5%	小:81.0% 中:74.6%	小:81.9% 中:78.8%	文科省調査に質問なし
ウ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:68.7% 中:52.3%	小:71.7% 中:55.6%	小:70.9% 中:57.4%	文科省調査に質問なし
(3) 進学や就職等進路が決まらないまま卒業する中学生の人数・割合	2014	767 人 1.04%	705 人 1.04%	614 人 0.85%	624 人 0.87%
(4) 公立中学校から高等学校等への支援情報の引継率	2015	60.3%	41.4%	42.0%	44.6%
(5) 肢体不自由特別支援学校におけるスクールバスの乗車時間	2015	60 分超の生徒 161 人	60 分超の生徒 151 人	60 分超の生徒 145 人	60 分超の生徒 108 人
(6) 特別支援学校高等部卒業生の一般就労の就職率	2014	36.7%	36.9%	38.2%	37.8%
(7) 外国人のプレスクール実施市町村数	2014	15 市町村	15 市町村	16 市町村	15 市町村
(8) 地域未来塾の実施市町村数	2015	2 市町村	10 市町村	15 市町村	18 市町村

指標の達成状況（達成状況と評価）

2019 年度	目 標		達成 状況	○:順調(目標数値ほぼ達成) △:やや進捗(目標値一部未達成) ×:不調(未達成) 評価(進捗状況の分析、今後の取組など)
	年度	数 値		
96.1%	2020	100%	○	策定している学力・学習状況充実プランは、市町村教育委員会や各小中学校で授業改善の指針としてよく認識されており、その効果と相まって指標もほぼ達成されている。今後も、研修会等で活用を促していく。
文科省調査 に質問なし	毎 年 度	前 回 調 査 を 上 回 る	—	問題解決型の授業のよさが認識されてきたことから、小中学校とも「めあて」を明確にし、見直しをもって学ばせる学習活動に取り組む割合が増えている。
文科省調査 に質問なし			—	新学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業や学習活動の場面で学び合いを大切にした授業がよく取り入れられている。
文科省調査 に質問なし			—	特に中学生が学習内容の振り返りをしている実感が持てるよう、学力・学習状況充実プランに、書くことやグループ交流をもとにした振り返りを利用した実践を掲載するなど、継続して授業改善を呼びかけていく。
626 人 0.89%	毎 年 度	前 年 度 を 下 回 る	△	ビジョン策定時と比較すると、0.15 ポイント減少している。このことから、学校の指導は徐々にではあるが、生徒や保護者に理解されていると考えられる。さらに、自己実現を指導する指導を継続する。
62.9%	毎 年 度	前 年 度 を 上 回 る	×	高等学校等へ支援情報を引継ぐことの有用性を、保護者・本人に理解してもらうための啓発が不十分であったと考えられる。今後も啓発リーフレットの作成を進め、理解が進むよう取り組んでいく。
60 分超の 生徒 135 人	2018	最 大 60 分 程 度	×	通学区域が広いと、スクールバスの増車だけでは長時間通学の解消は図りきれない。引き続き、新設校や分教室の設置、通学区域の見直し等を検討する。
38.2%	2020	50%	×	障害による特性があり、就職を希望する生徒と企業との結び付きが十分図られていない。就労アドバイザーを更に増員し、より一層企業との連携強化を図っていく。
16 市町村	2020	増 加	△	プレスクールの必要性を感じていても、まだ実施できていない市町村もある。呼びかけや支援を継続していく。
18 市町村	毎 年 度	増 加	○	様々な機会を捉えて、地域未来塾の取組についての周知・啓発に努めた。引き続き、市町村に働きかけ、拡充を促していく。

指標の達成状況（指標と進捗状況）

指 標		ビジョン策定時点		2016 年度	2017 年度	2018 年度
		年度	数値			
2. 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育みます						
(1) 道徳性・社会性、魅力ある学校に関する指標						
ア	「学校のきまりを守っていますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:91.9% 中:95.3%	小:92.6% 中:95.4%	小:92.6% 中:95.2%	小:91.1% 中:95.7%
イ	「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:75.8% 中:68.6%	小:76.3% 中:69.8%	小:77.9% 中:70.7%	小:84.4% 中:80.3%
ウ	「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:87.1% 中:81.7%	小:86.7% 中:81.2%	小:86.3% 中:80.9%	文科省調査に質問なし
	(2) 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2015	小:95.8% 中:93.0%	小:96.2% 中:92.7%	小:96.1% 中:92.8%	小:96.6% 中:94.7%
	(3) 愛知県内の学校(国公立小・中・高・特別支援学校)におけるいじめの解消率	2014	82.5% (2014 年度)	83.6% (2015 年度)	91.3% (2016 年度)	84.8% (2017 年度)
	(4) 公立小・中・高等学校におけるスクールソーシャルワーカー(SSW)及びスクールカウンセラー(SC)の配置人数	2013	SSW:20 人 SC:523 人	SSW:36 人 SC:556 人	SSW:47 人 SC:542 人	SSW:64 人 SC:538 人

3. 健やかな体と心を育む教育を充実させ、たくましく生きる力を育みます						
	(1) 「親の学び」学習プログラム活用講座参加人数	2014	2,317 人	2,215 人	2,167 人	1,218 人
	(2) 放課後児童クラブ児童の放課後子ども教室等教育プログラムへの参加が可能な小学校区の割合	2014	37.1%	39.8%	44.1%	47.8%
	(3) 幼稚園等と連携・接続している小学校の割合	2014	57%	56%	非調査年度	非調査年度
	(4) 学校給食における年間に使用した県産食品の種類	2014	54 種類	57 種類 (2015 年度)	57 種類 (2016 年度)	55 種類 (2017 年度)
	(5) 薬物乱用防止教室を実施した公立小・中学校の割合	2014	小:65.5% 中:88.4%	小:75.2% 中:91.9%	小:77.3% 中:89.9%	小:100% 中:100%
	(6) 県内小学校における体力向上運動プログラムの活用状況	2015	57.6%	99.4%	99.7%	100%

指標の達成状況（達成状況と評価）

2019 年度	目標		達成 状況	○:順調(目標数値ほぼ達成) △:やや進捗(目標値一部未達成) ×:不調(未達成) 評価(進捗状況の分析、今後の取組など)
	年度	数 値		
小:93.7% 中:96.6%	毎 年 度	前 回 調 査 を 上 回 る	○	小中学校とも「学校のきまりを守っている」と回答する児童生徒が、経年で順調に増加している。今後も、「特別の教科 道徳」を要に道徳教育の充実を促し、児童生徒の社会性の涵養に取り組んでいく。
小:81.6% 中:74.8%			△	自己肯定感の大切さが認識されてきたため、授業や学級活動の場面で児童生徒を評価する取組が行われており、「自分にはよいところがある」と回答する児童生徒が経年では増加傾向にある。
小:86.1% 中:82.1%			△	年度によつての増減はあるものの、8割を超える高い割合で推移している。今後も、「分かりやすい授業」を目指す授業改善等を促すとともに、魅力ある学校づくりを呼びかけていく。
小 97.0% 中 94.0%	毎 年 度	前 回 調 査 を 上 回 る	○	中学校では微減となったが、いじめ防止に向けて、子どもたちの高い意識が見られる。
81.8% (2018 年度)	2020	100%	△	解消率の数値そのものは低下しているが、安易に「いじめが解消した」とせず、丁寧に子どもの様子を見ていこうとする姿勢が各学校に浸透してきた結果であり、よい状況と考えている。
SSW:70 人 SC:525 人	毎 年 度	増 加	△	SSW、SC の人数、設置補助の市町村数は増加し、学校内における活用も進んでいる。 今後も、教育相談体制の一層の充実を図りたい。

1,406 人	毎 年 度	2,000 人 以上	×	多くの保護者に、子育てについての学びの場を提供してきた。引き続き、家庭教育の重要性を啓発し、より多くの保護者に学びの機会を提供したい。
54.5%	2020	100%	×	引き続き、市町村に働きかけ、拡充を図っていく。
95%	2020	75%	○	新学習指導要領の実施が進む中で、幼小の円滑な接続が認識されてきている。そのため、交流を教育課程に位置付けていると回答する割合が増加している。
54 種類 (2018 年度)	2020	60 種類 以上	△	調理場ごとに意識して地場産物の活用を進めてきており、達成率 90%程度で推移している。しかし、価格や仕入れ数の確保の難しさに加え、流通の問題等が改善されていない状況もあるため、今後も、できる限り種類を増やしていくよう取り組んでいく。
小:99.3% 中:100%	毎 年 度	前 年 度 を 上 回 る	○	一部、隔年実施の学校はあるものの、県内全ての学校で、教室が実施されるようになった。
100%	2020	80%以上	○	「体力向上運動プログラム」策定後、教員を対象に実技講習会を開催し、活用促進を図ってきた。また、県のホームページへのプログラム掲載、各種教員研修での周知を継続させており、活用状況は目標数値を上回る結果となった。

指標の達成状況（指標と進捗状況）

指 標	ビジョン策定時点		2016 年度	2017 年度	2018 年度
	年 度	数 値			
4. 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します					
(1) 県立全日制高等学校におけるインターンシップ等に参加した生徒数	2014	11,286 人	17,323 人	18,243 人	20,279 人
(2) キャリア教育の視点で体験活動を実施している小学校の割合	2015	66.6%	76.4%	76.3%	74.0%
(3) 「外国語が話せるようになって自分で外国に行ってみたいですか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合	2012	小:72.7% 中:59.2% 高:62.4%	該当なし	非調査年度	非調査年度
(4) 高校第3学年において、英検準2級以上を取得している生徒及び英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合	2015	30.0%	30.4%	34.7%	32.8%
(5) 生涯学習情報システムアクセス数	2014	187,606 件	102,499 件	111,801 件	142,405 件
(6) 2020 年東京オリンピック競技大会への愛知県ゆかりの選手の輩出数	2012	ロンドン大会 20 人	リオデジャネイロ 大会 37 人	強化中	強化指定 234 人
(7) 2020 年東京パラリンピック競技大会への愛知県ゆかりの選手の輩出数	2012	ロンドン大会 8 人	リオデジャネイロ 大会 7 人	強化中	強化指定 35 人

5. 学びがいのある魅力的な教育環境づくりを進めます					
(1) 授業中に ICT を活用して指導できる教員の割合	2014	64.9% (2014 年度)	65.8% (2015 年度)	67.0 % (2016 年度)	68.7% (2017 年度)
(2) 愛知県総合教育センターにおける研修・講座等に学生が参観する取組に参加する大学数	2015	3校	4校	6校	3校
(3) 三河山間地域における中高連携を通じた交流事業数	2013	3件	3件	3件	3件
(4) 学校支援ボランティアの実施校の割合	2013	小:96% 中:76%	小:98.4% 中:88.0%	非調査年度	非調査年度
(5) 教員の多忙化解消に向けた取組を学校経営案に位置付けている県立学校の割合	2015	—	10.8%	100%	100%
(6) 市町村教育委員会において、教員の多忙化解消に向けた方針を策定し、取組を進めている市町村数	2015	—	3市町村	12 市町村	21 市町村

指標の達成状況（達成状況と評価）

2019 年度	目標		達成 状況	○:順調(目標数値ほぼ達成) △:やや進捗(目標値一部未達成) ×:不調(未達成) 評価(進捗状況の分析、今後の取組など)
	年度	数 値		
20,257 人	2020	18,000 人	○	2017 年度以降、毎年、18,000 人以上の生徒がインターンシップ等に参加している。
76.1%	2020	100%	×	学習指導要領には特別活動がキャリア教育の要として位置づけられており、小・中・高等学校で系統的な指導をする必要があることを、引き続き、周知していく。
小:60.9% 中:60.6% 高:73.2%	毎年度	前回調査 上回る	△	小学校外国語科授業の充実、小中接続やコミュニケーション能力の向上等を目標として、継続して研修・研究を行っている。
36.7%	2020	50%以上	×	ALTを活用して授業を工夫するなど、生徒の英語力を高める取組を今後も継続して推進していく。
203,772 件	毎年度	前年度を 上回る	○	生涯学習情報システムアクセス数は、4年間を通して前年度を上回ることができた。
強化指定 281 人	2020	80 人以上	○	2015 年度の事業開始以降、200名以上の強化指定選手の認定が継続できている。
強化指定 38 人	2020	15 人以上	○	2016 年度の事業開始以降、35名程度の強化指定選手の認定が継続できている。

63.7% (2018 年度)	2020	80%	×	今後、児童生徒用端末の整備に伴い、コンピュータや提示装置などを活用した授業を行い、興味・関心を高めたり課題を明確につかませたりできるよう研修を呼びかけていく。県立学校では、2019 年度に教員用タブレットPCの整備がなされており、活用が期待できる。
5校	2020	8校	△	教職を目指す学生のために、研修・講座等への参観事業が有効に活用されるよう、継続して教員養成系の大学との連携や情報発信をしていく。
3件	2020	6件	×	三河山間地域において中高連携を通じた交流を円滑に実施することができた。
非調査 年度	2020	各 100%	—	教員の働き方改革の必要性が地域にも浸透しつつあり、地域ボランティアの機運は高まっている様子である。
100%	2020	100%	○	学校経営案に位置づけることで、特に管理職の多忙化解消への意識が高まったことが感じられる。
23 市町村	2020	全市町村	×	働き方改革の必要性の認識が高まっており、どの市町村も実情に合わせて取組を進めている。さらに呼びかけていく。

